

第17回通常総会 記念フォーラム 開催報告

「支えあいのあるまちへ～就労支援から新しいつながりをつくる」

◆就労支援から共同企業体での困窮者支援への拡がり

——協会の生活困窮者支援活動——

報告者：(N) ワークス・コレティブ 協会副理事長 岡田 百合子

◆「はたらっく・ざま」を共に運営して

報告者：さがみ生活クラブ生協理事長 矢野 克子さん

◆「ゆがわら、ひらつかと就労支援に取り組む私たち」

報告者：湘南生活クラブ生協理事長 飯田 厚子さん



開催日：5月21日（金） 波止場会館

総会終了後、記念フォーラム「支え合いのあるまちへ～就労支援から新しいつながりをつくる」を開催し、リモート参加も含め51名の方に参加していただきました。

2019年の総会で立教大学藤井敦史先生に講演していただいた「社会的連帯経済」の実践例として「はたらっく・ざま」の活動報告がありました。その活動も4年を経過し、湯河原町、平塚市へと事業が広がっています。今回のフォーラムは、座間での経過と現状の報告を岡田副理事長より、そしてさがみ生活クラブ生協と湘南生活クラブ生協より、共同事業体としての立場から報告をいただきました。

協会では、社会的に弱い立場の人たちの就労支援、居場所づくりを進めてきました。座間市就労準備支援事業「はたらっく・ざま」では、生活クラブ運動グループだけでなく、地域の市民の理解と共感を得て、地域のネットワークが広がっています。また、様々なニーズに応えプログラムも充実してきました。利用者の増加によりさらに多様な支援の必要性を感じ、行政も巻き込みながら、困難を抱える人たちへの支援が広がっています。

小田原保健福祉事務所就労準備支援事業「はたらっく・ゆがわら」も3年目を迎えましたが、利用者の年齢が高く生活保護の方が多いなどの特徴も踏まえ、利用者寄り添ったプログラムの実施、おたすけ隊の組織化などが行われ、また、居宅生活移行総合事業で安定した居住の確保も行っています。

「はたらっく・ざま」「はたらっく・ゆがわら」は、生活クラブ生協との共同企業体で活動していますが、さがみ生活クラブ生協矢野理事長からは、受託したもののどのように関わったらよいか戸惑いながらのスタートではあったものの、共にイベントを企画開催し、実習生の受け入れ協力を行っていく中で、生きづらさを抱えた人は大勢いる、身近な課題であることを実感し、「関わる組合員を増やし、誰もが安心して暮らせる地域に必要なものは何か考え、誰にでも『居場所』と『出番』がある活動を作りたい」、また湘南生活クラブ飯田理事長からは、「地域の課題は住み暮らす地域の人に関わることで解決につながる。孤立化や貧困問題、労働問題は、待ったなしの自分の課題であり、地域課題を解決し誰もが暮らしやすい地域づくりを目指したい」との報告があり、「はたらっく」の活動を通じて、様々なつながりが

でき、共生社会の実現に向け一歩ずつ進んでいることが実感できました。

今は、コロナ禍により社会的なつながりが分断され、必要とする人への支援が難しい状況が続きますが、協会では「共に働く・暮らす」地域づくりの実践として、社会状況の変化に対応しながら、生活困窮者支援の輪を広げていきたいと思っています。

(荻野 慶子)



参加者でスクリーンショット

「はたらっく・ざま」での

ひな祭りイベント



はたらっく・ゆがわらの活動 ①

●サロンの開催

- ・サロンの講師は理事、お手伝いは地域の組合員。
- ・事業開始に向けて消費材(調味料)の寄付 食材の提供 等



はたらっく・ゆがわらの活動 ②

・季節講座 (クリスマス会・お正月)

クリスマス会の食材は湘南からも寄付しました。



